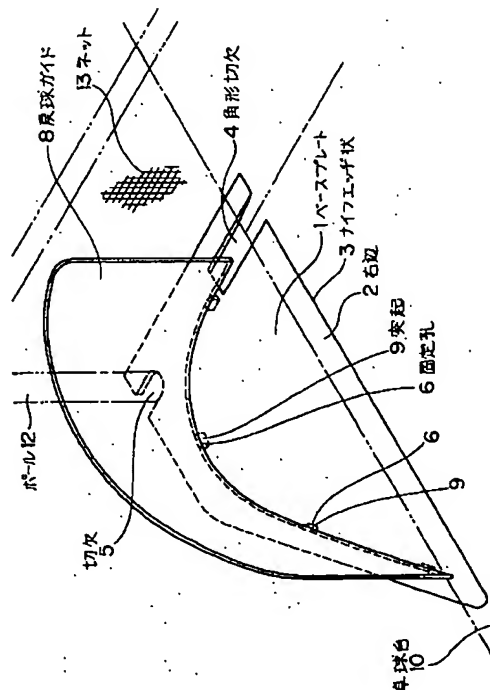


(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成10年(1998)7月28日

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 5 頁)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 卓球台に張られたネットのボール側より卓球台の側縁上面に向かう下り勾配のベースプレートと、該ベースプレートの上面に垂直状に設けられた平面視内向きのほぼ半円状で円弧の一端が卓球台側縁のほぼ上方位置においてネットに接し他端が卓球台の外端中央部に向いて直線状に延びている戻球ガイドと、前記ベースプレートを卓球台またはネットのボールあるいはクリップベースに固定する固定手段とからなる卓球練習用戻球装置。

【請求項2】 ベースプレートと戻球ガイドとが着脱可能なものである請求項1記載の卓球練習用戻球装置。

【請求項3】 ベースプレートが、反転させることによりネットを挟んで反対側に固定できるものであり、戻球ガイドが、可撓性を有するプラスチック製で円弧の反転が可能なものである請求項2記載の卓球練習用戻球装置。

【請求項4】 ベースプレートと戻球ガイドとがネットを挟んで左右対称に一体的に形成されている請求項1または請求項2記載の卓球練習用戻球装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、卓球練習用戻球装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、卓球練習の内、最も一般的な右きき選手によるフォアサイドのクロス打ちにおけるドライブ練習の際、ネットに掛かった球は回転しながらネットに沿って卓球台の左側縁から落下し、そのまま床の上を横方向に転がっていく。

【0003】この転がった球は、スピードがあり回転が掛かっているため、なかなか取りにくく、多くの場合、隣の卓球台の下に入り込むため、その前に拾うことは危険を伴う恐れがあった。

【0004】また、前記フォアサイドのクロス打ちにおけるドライブ練習の際にネットに掛かって落下した球は、自分のミスにもかかわらず相手に近い左側のネット際に落ちるため、相手を気使って急いで拾おうとすることが多く、この動きが危険に結びつくと共に卓球練習においては大変無駄で疲労も大きく、練習効率の悪いものであった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記従来の諸問題を解決して効率的な卓球練習が行えるようにすることを技術的課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、ネットに掛かって回転しながら卓球台の側縁に向かって転がる球を、ネットに接して卓球台の側縁に設けた戻球ガイドにより卓球台の中央手前、すなわち、自分の手元に誘導するよ

うにしたことを特徴とするものである。

【0007】すなわち、本発明の第1は、卓球台に張られたネットのボール側より卓球台の側縁上面に向かう下り勾配のベースプレートと、該ベースプレートの上面に垂直状に設けられた平面視内向きのほぼ半円状で円弧の一端が卓球台側縁のほぼ上方位置においてネットに接し他端が卓球台の外端中央部に向いて直線状に延びている戻球ガイドと、前記ベースプレートを卓球台またはネットのボールあるいはクリップベースに固定する固定手段とからなる卓球練習用戻球装置である。

【0008】また、本発明の第2は、前記第1の発明において、ベースプレートと戻球ガイドとが着脱可能な卓球練習用戻球装置である。

【0009】また、本発明の第3は、前記第2の発明におけるベースプレートが、反転させることによりネットを挟んで反対側に固定できるものであり、戻球ガイドが、可撓性を有するプラスチック製で円弧の反転が可能なものである卓球練習用戻球装置である。

【0010】また、本発明の第4は、前記第1または第2の発明において、ベースプレートと戻球ガイドとがネットを挟んで左右対称に一体的に形成されている卓球練習用戻球装置である。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づき説明する。

【0012】〔実施の形態1〕図1は本発明に係る卓球練習用戻球装置の一実施例における斜視図で、基本的な構造としてはベースプレート1と、その上に垂直状に設けられた円弧状の戻球ガイド8とから成り、ベースプレート1を卓球台側縁のネット際に固定して使用するものである。

【0013】ベースプレート1は図示の如く、厚さ約2～3mm程度の平板状で、野球のホームベースを中心から二つ割りにした左半部の形を呈しており、中心に当たる右辺2の端縁部はナイフエッジ状3に形成され、この右辺2の上部に長手状の角形切欠4を直角方向に設けると共にその左方延長線上のベースプレート1の左辺には奥部が丸い切欠5が設けられている。

【0014】前記ベースプレート1の上部右辺の長手状の角形切欠4は、その幅がネットサポートのクリップベース(図2参照)11にしっかりと嵌まる幅で、その奥行き(深さ)は、図2、図3に示す如くベースプレート1をネットサポートのボール12側より卓球台10の側縁上面に向かって下り勾配(約3°～5°)に設置した際、ベースプレート1の右辺2が卓球台10の上面から浮かない位置まで切り込まれている。

【0015】また、前記ベースプレート1の上部左辺の奥部が丸い切欠5は、その幅がネットサポートのボール12にしっかりと嵌まる幅で、その奥行きは、図示の如くボール12が完全に嵌まり込む位置まで切り込まれて

いる。

【0016】一方、戻球ガイド8は図1に示す如く約1～2mm程度の薄い平板を円弧状に曲げたもので、図示の例においては下端に複数の円形または角形の突起9を一体的に備えており、この突起9を、前記ベースプレート1の上面に円弧状の軌跡に沿って突起9と対応する位置に設けた複数の固定孔6に差し込むことにより垂直状に固定される。

【0017】なお、前記ベースプレート1に対する戻球ガイド8の固定手段としては、この他、円弧状の軌跡に沿って断面凹状の案内ガイド14（図4参照）をベースプレート1上に設け、この案内ガイドの凹溝に薄板状の戻球ガイド8の下端部を嵌め込んで垂直状に固定することもでき、このベースプレート1と戻球ガイド8との固定手段は特に限定されるものではない。

【0018】前記戻球ガイド8は、図2に示す如く平面視内向きのはほぼ半円状で円弧（曲率半径約6～10cm）の一端が卓球台10側縁のはほぼ上方位置においてネット13に接し、他端が図5の如く卓球台10の外端中央部に向いて直線状に延びており、上端縁は図1、図3の如くネット13の高さよりやや低い高さで、ネット13側の上方の一端から下方の他端にかけて徐々に低くなっている。

【0019】なお、前記ベースプレート1や戻球ガイド8の材質は特に問わないが、ポリエチレンの如き柔軟性と可撓性を有するプラスチック板であれば、ベースプレート1におけるクリップベース11に嵌まる下面部分の肉厚を一定長さにわたり高くして逆凹状の嵌合部7（図2、図3参照）としたり、角形切欠4や奥部が丸い切欠5の寸法管理を厳密に行うことにより、特別な固定手段なしで図2、図3の如くベースプレート1をネットサポートのクリップベース11やボール12にガタツクことなく、しっかりと嵌め込んで固定することができる。

【0020】この場合、ネットサポートのクリップベース11やボール12に嵌まるプラスチック製ベースプレート1の弾性力が固定手段となるが、ベースプレート1を卓球台10またはネットのボール12あるいはクリップベース11に固定する固定手段としては、前記プラスチックの弾性力を利用するものの他、図示しないが、ばねやねじを利用したクランプ式その他各種の手段を採用することができるもので、この固定手段についても特に限定されるものではない。

【0021】また、前記ベースプレート1や戻球ガイド8を透明板にて形成すれば、球の位置や動きがよくわかる。

【0022】前記戻球装置の卓球台10への取り付けは、卓球台10にネットサポートを固定した後、その内側からベースプレート1の左辺上部の切欠5をボール12に嵌め込むと共に右辺2を卓球台10の上面に押し付けると、右辺上部の角形切欠4や逆凹状の嵌合部7がク

リップベース11にしっかりと嵌まり込み、安定的に固定される。

【0023】なお、前記ベースプレート1を反転させた場合にも前記と同じ勾配にてネットサポートのクリップベース11やボール12に固定可能な構造とし、戻球ガイド8についてもベースプレート1に對し着脱可能なものとしておけば、この戻球ガイド8を逆に曲げて反転させたベースプレート1上に前記と同じ円弧状に嵌め込むことにより、この戻球装置をネット13の反対側に設置することができる。

【0024】〔実施の形態2〕図4は、前記実施の形態1における戻球装置のベースプレート1と戻球ガイド8とが、角形切欠4と切欠5の中心線を挟んで左右対称（図面上では上下対称）に一体的に形成されている卓球練習用戻球装置で、戻球ガイド8がベースプレート1上に設けられた断面凹状の案内ガイド14の凹溝に嵌め込まれているものである。

【0025】この例においては、ベースプレート1'の平面形状が図示の如く角形切欠4と切欠5の中心線を挟んで左右対称、すなわち、側部上方から見て逆台形状を呈しているもので、その他の形状・構造は前記ベースプレート1と同じものである。

【0026】従って、この戻球装置をネットサポートに一つ取り付ければ、図5の如くネット13の両側に戻球ガイド8を設置することができる。

【0027】

【作用】本発明に係る戻球装置を図5の如くネット13の両側に取り付ければ、前記フォアサイドのクロス打ちにおけるドライブ練習の際にネット13に引っ掛かった打球は、左下方向の回転がかかっているためネット13に沿って左方へ勢いよく転がるが、この球は卓球台10の左側縁から落下することなく戻球装置のベースプレート1上に駆け登ると同時に戻球ガイド8の内面に沿って図5の矢印の如く、卓球台10の外端中央部、すなわち、練習者の手元に戻ってくる。

【0028】この際、ベースプレート1上に駆け登った球にあまり勢いがなかったとしても、球はベースプレート1上に止まることなく、ベースプレート1における内側への下り勾配により矢印の如く練習者の手元に戻ってくる。

【0029】なお、バックサイドにおいてクロス打ちのドライブ練習をする場合には、卓球台の反対側（図5においては右側）のネットサポートに前記戻球装置を取り付けばよい。

【0030】

【発明の効果】本発明においては、フォアサイドまたはバックサイドにおいてクロス打ちのドライブ練習をする場合、ネットに引っ掛かった打球が卓球台の側部に転げ落ちず、自然に手元に戻ってくるため練習効率が大幅に向上する。

【0031】また、多数の卓球台を並べて練習する場合においても、ネットに引っ掛かった打球が卓球台の側部に転げ落ちて隣の卓球台の下に入り込むことがないので、急いで球を拾う必要がなく、危険性と疲労が大幅に軽減される。

【0032】さらに、ベースプレートと戻球ガイドとを着脱可能なものとし、戻球ガイドを表裏いずれの側にも湾曲可能な平板状のものにしておけば、これらを多数有効に重ねることができるので、保管や輸送に際し少ないスペースですむ。従って、本発明の利用価値は大きく、産業上利用性も非常に高いものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明における第1の実施例の斜視図。

【図2】 本発明における第1の実施例の平面図。

【図3】 本発明における第1の実施例の正面図。

【図4】 本発明における第2の実施例の平面図。

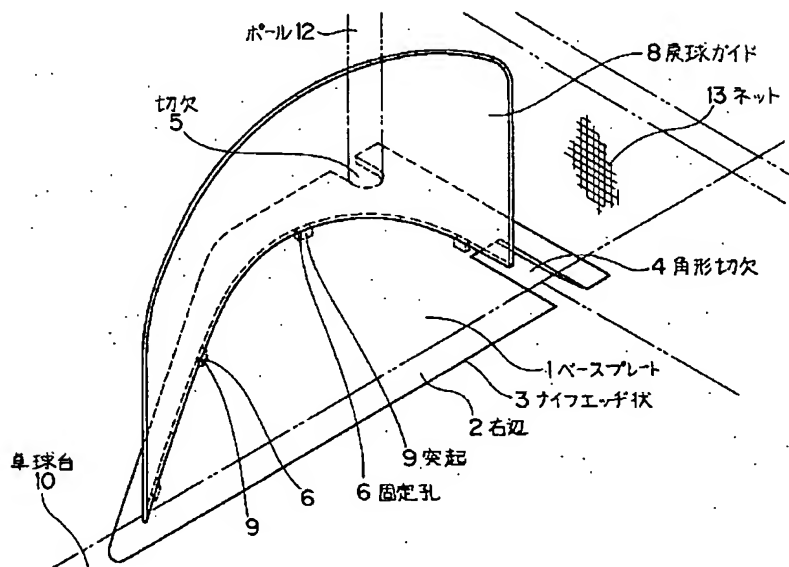
【図5】 本発明における第2の実施例を卓球台に設置

した状態の平面図。

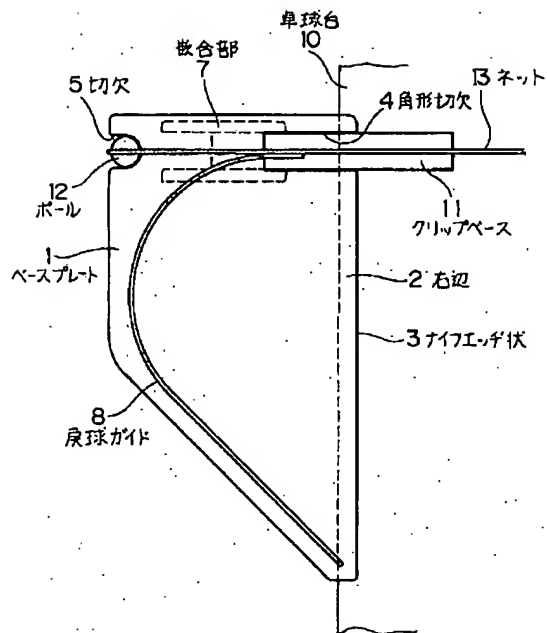
【符号の説明】

- 1 ベースプレート
- 2 右辺
- 3 ナイフエッジ部
- 4 角形切欠
- 5 奥部の丸い切欠
- 6 固定孔
- 7 嵌合部
- 8 戻球ガイド
- 9 突起
- 10 卓球台
- 11 クリップベース
- 12 ボール
- 13 ネット
- 14 案内ガイド

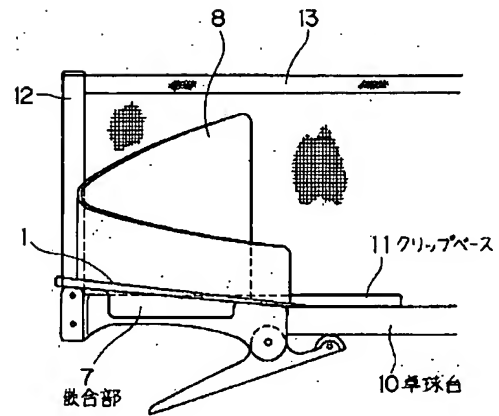
【図1】



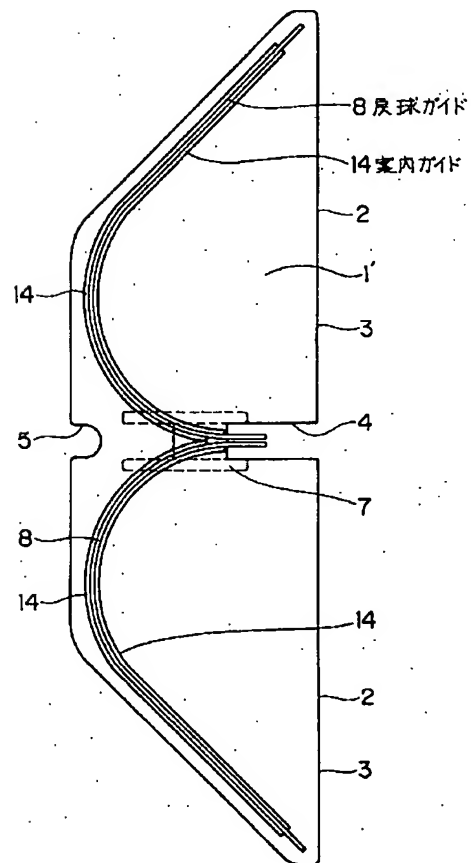
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

